

# 救護棟カルテ No. 21



春から夏にかけては様々な動物の繁殖期となっており、営巣が行われる季節でもあります。今回は知らないようで意外と身近な、動物の営巣についてご紹介します。

人間にとって身近な動物の営巣といえば、ツバメを思い浮かべる方も多いのではないのでしょうか。夏鳥であるツバメは、春（早い個体は3月上旬）になると繁殖のために東南アジアから日本に渡り、カラスやヘビなどの天敵から卵や雛を守るため、人間の出入りが多い場所に営巣します。センターがある大玉村は、巣材となる泥と糞を手に入れやすい田んぼが多いため、毎年たくさんのツバメが観察できます。



昔から「ツバメの巣は縁起が良い」とされていますが、近年では、糞害が原因で巣が壊されてしまうケースが増えています。人間との距離が近い分、人間がよく通る場所に糞が落ちてしまい困る事例が多いのも事実ですが、糞受けとなる段ボールなどを壁や床に設置することで対策ができます。毎年小さな体で長旅の末に日本を訪れてくれるツバメたち…あたたかく迎え入れたいですね。



左翼骨折によりセンターで復帰訓練中のオオタカ（左の写真）も、4月中旬ごろから観察コーナーにて営巣行動がみられました。オオタカが好みの巣材を選べるよう、野生動物管理員が枝を拾い集めて観察コーナー内に補充すると、地面にある排水溝を囲うように細い枝を集め、その中央部に松の葉を敷き詰めて形を整えていました。（右下の写真）

営巣中のオオタカは警戒心が強くなり、普段聞いたことのない「キョキョッ」という甲高い声を出したり、肩をすぼめて頭を低く下げて警戒したりする様子が見られたため、給餌や掃除の時間が短くすむように工夫をしながら見守っています。

センターにいる動物は治療または復帰訓練中であり、人間の存在や万全ではない体調から、常に緊張

状態にあります。そんな中、今回の営巣のように、その動物本来の自然に近い行動がみられたことは野生動物管理員にとっても嬉しい出来事になりました。

（共生センターの Twitter アカウントにオオタカの動画を投稿しておりますので、ご覧ください!）



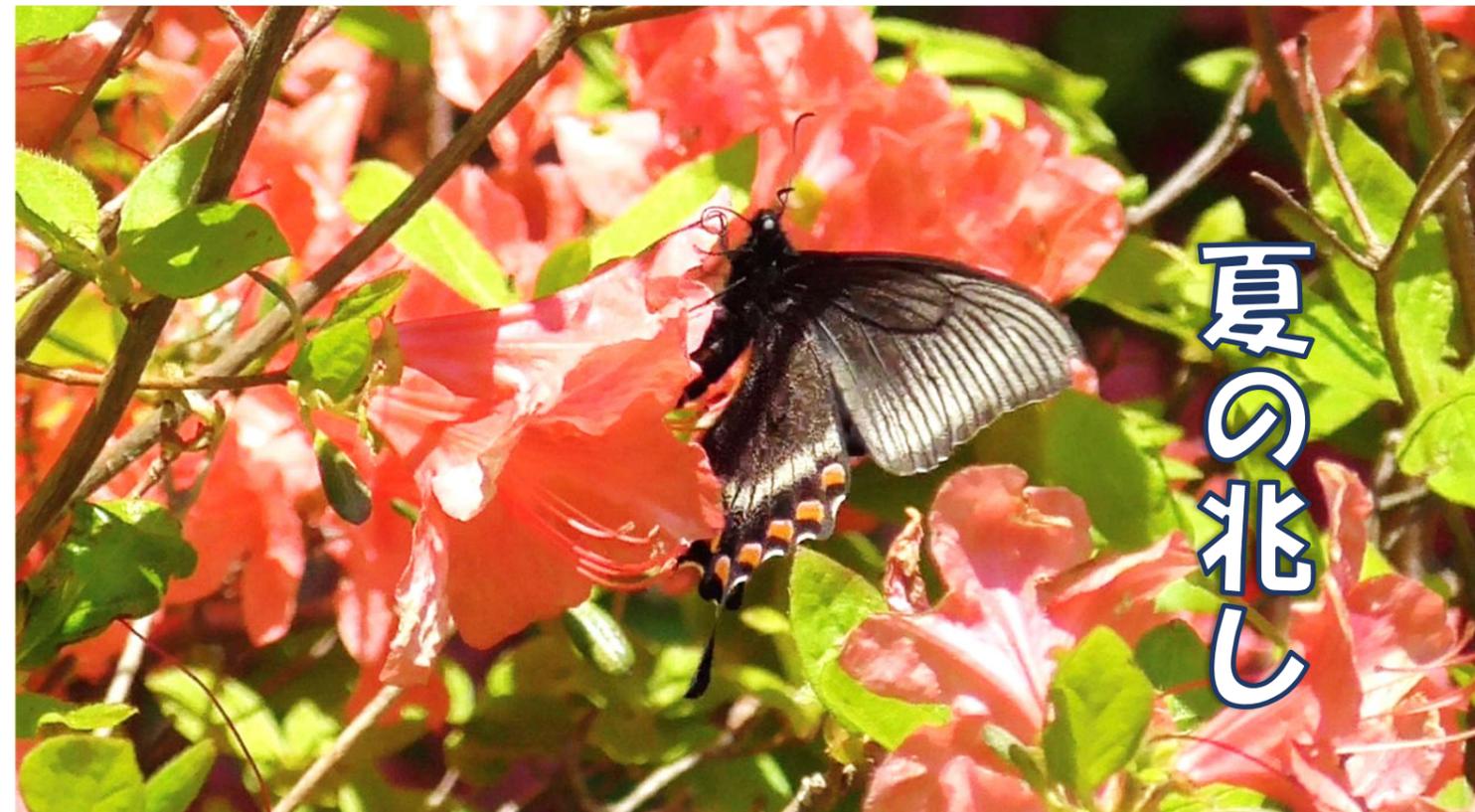
令和5年7月12日 福島県環境創造センター 附属 野生生物共生センター

# あだたら 森の回覧板

Vol. 21 夏号



コマドリ



ツツジとミヤマカラスアゲハ（センター前遊歩道撮影）

野生生物共生センターでは、野生動物の剥製やパネルの展示、映像放映等を行っており、入館料無料で自由に見学・閲覧できます。事前にご相談いただければ、団体でのご利用や職員による解説などの対応も可能ですので、興味をお持ちの方はお問い合わせください。

詳しくは... [HP](#) [環境創造センター](#) [検索](#)

**発行: 福島県野生生物共生センター**  
〒969-1302  
福島県安達郡大玉村玉井字長久保 67  
電話 0243-24-6631  
開館時間 9:00~17:00  
休館日 毎週月曜日  
(祝日の場合はその翌日)

## 野生動物の放射性セシウム調査（タヌキの放射性セシウム濃度はどれくらい？）

### 〇はじめに

東京電力(株)福島第一原子力発電所の事故により環境中に放出された放射性物質は、野生動物に食物網を通して取り込まれています。福島県内に生息する野生動物の放射性セシウム濃度はどれくらいなのでしょう。野生生物共生センターでは、野生動物の調査の一環として、福島県環境創造センター研究部と共同で野生動物の放射性核種に関する調査を実施しています。今回は、福島県内に生息しているタヌキ（ホンダタヌキ）の放射性セシウム濃度に関する調査をご紹介します。（※）

### 〇タヌキの生態

タヌキは昆虫や小型哺乳類、植物、生ゴミや残飯などを食べる雑食性で、生息地域は森林や農業地域・都市部などさまざまな環境に適応しており、行動圏面積は森林・農業地域ではおよそ1km<sup>2</sup>、都市部ではおよそ0.3km<sup>2</sup>とされています。



### 〇調査の結果

2013年～2022年に保護された62頭のタヌキの放射性セシウム濃度を測定し地域ごとに比較しました。

その結果、右のグラフのように「浜通り」、「中通り」に比べて「会津」が低い結果となりました。タヌキの行動圏を考えると、測定したタヌキが生息していた環境の放射性セシウム濃度を反映していると考えられます。

野生生物共生センターでは、今後も都市部や森林、農業地域などの生息環境による差の比較や他の野生動物の分析などの調査を進めていきます。

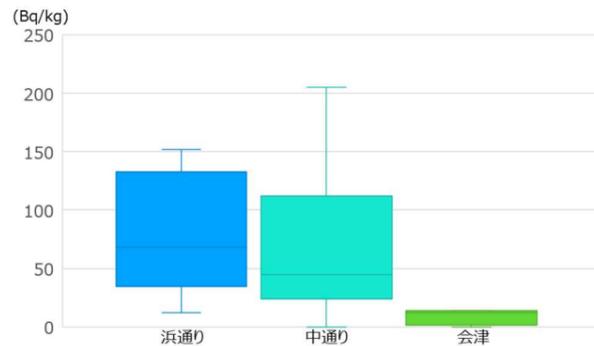


図 タヌキの放射性セシウム濃度

※「令和4年度野生動植物への放射線影響調査研究報告会（環境省主催）」で福島県環境創造センターが発表した内容から一部抜粋したものです。

## クマにご注意ください！

例年、春から夏にかけてはツキノワグマと遭遇して怪我を負う事故が多発する季節です。被害を未然に防ぐために、次のような対策をしましょう。

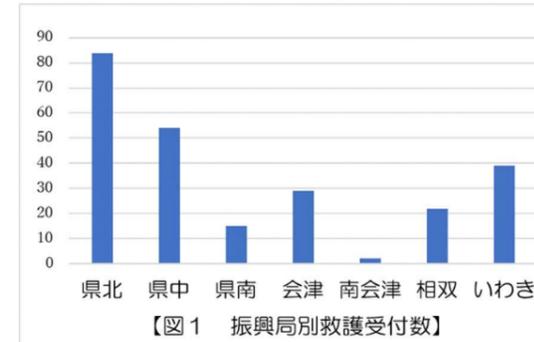
- クマの目撃があるところでは、**鈴など音のする物**で人の存在をクマに知らせましょう。
- 自分の住む地域や旅行先に**クマの目撃があるか調べましょう。**
- 出かける**時間帯や天気**に気をつけましょう。クマの活動時間である明け方や夕方の薄暗い時間帯、雨や霧の日は鈴の音が遮られますので注意が必要です。



県自然保護課 HP

## 令和4年度野生動物傷病白書

福島県の野生動物の救護活動は、各地方振興局と県自然保護課のネットワークにより実施されています。令和4年度の野生動物の救護受付総数は245件で、これを各振興局別に振り分けると図1のようになります。



受付総数のうち鳥類は74.2%、哺乳類25.7%でした。哺乳類の大半はタヌキによるものですが、ムササビ（3例）ホンドキツネ（3例）ニホンカモシカ（2例）ニホンリス（1例）の搬送がありました。

図2は、野生動物が傷病を被ることになった推定原因を分類したものです。物理的原因の中には、電線や建造物衝突による局所の打撲や骨折、交通事故による中枢神経障害など多岐に渡ります。

人為的原因には、誤認保護や違法飼育、最近多くなっているネズミ捕りシートの付着などがあります。その他には、ペットのネコによる鳥の咬傷や飼い犬が親を損傷させたことで孤児となった幼ムササビの保護等、人間が飼育している動物によるものも含まれます。原則として幼若動物は保護しないこととしていますが、これについては別の機会に様々なケースについて紹介したいと思います。



野生動物の救護活動は、各振興局の現地確認からスタートします。令和4年度の受付総数から搬送中に死亡した数を除き、野生復帰に向けて治療・看護に着手した動物数のうち、野生復帰を果たした例数は41.1%でした。一般的に、野生動物の復帰率は30%程度といわれている中、高い復帰率を記録することができました。

## 森の四季通信 ～ たくらん 托卵

3月から5月にかけて森の春が始まります。森とは県民の森のことです。

森のどこからか、ボンボンと鼓を打つような鳴き声が聞こえます。ツツドリですね。近くではキョキョキョキョクと鳴いています。聞きなしが「特許許可局」、ホトトギスです。数週間遅れて、カッコウと森に響き渡る鳴き声がかかります。更に数週間遅れて、今年はジュウイチと鳴く鳥もやって来たようです。（後者の2羽は、鳴き声そのものが鳥名に付されています。）

この鳥たちの不思議さは、他の鳥の巣に卵を産み落とし実際の子育てをやらないことです。これを托卵と言います。この習性の始まりを、多くの見識者は偶然説を支持しています。

托卵された卵は、本来の宿主の卵より早く孵化し、遅れて孵化した宿主の雛や卵を巣外へ落とします。この奇妙な行動は、ある意図を持って行われているように見え、これは偶然説では説明できません。悲しいことに、宿主の仮親はひたすらエサを運び続けます。

夏も終わる頃、托卵をした親鳥たちは森から一斉に渡去し、これより遅れて子鳥たちだけの渡りが始まります。